

私の風土記

今村 雄二郎 (株式会社アイヴィス 名誉顧問)

第三章

米国留学

ケンタッキー大学は米国中西部（決して西部ではないのだが、開拓時代の米国ではアレガニー山脈より西は全て西部と呼んでいた）ケンタッキー州レキシントン市にある州立大学である。

当時朝鮮戦争に18ヶ月従軍すると授業料が免除されるという制度があり、州立大学はどこも復員軍人で学生数が増加していた。

ケンタッキー大は7000人の学生がいたが、日本人は私一人だった。

（後に後輩が一人と科技庁から一人派遣されて来て3人になった）

周辺は未だ農場や牧場といった田舎であったが、その後IBMのタイプライター製造部門、1980年代にはトヨタの乗用車工場（ジョージタウン工場）が出来て、徐々に工業化が進んだ。

大学では主に自動制御、原子力工学などを学んだが、英語の習得のために、すでに日本の大学で習得済みの電気機械工学なども履修した。又電子工学実習では、アメリカの学生の電子回路・部品に対する基礎知識の高さを、大いに認識させられた。

毎日午後は担任助教授の助手として研究実験を手伝った。主に種々の半導体の誘電体損失の研究であった。

最初の半年は、車も持たず、日常にやや不便を感じていたのだが、その頃大学の掲示板で、住み込み食事付きアルバイトを発見した。電子工学の学生で、夜間常勤の技術者がいないときに、病院の急患に対して使用される医用電子機器の調整メンテを担当するというもので、病院は部屋と食事を無償で提供するというものであったから、応募して採用された。

これも大学とはまた別の米国での専門病院（小児麻痺）の内部を知る良い経験になった。又その後の実習では、新設される医学部付属病院の、電気／電子設備設計の仕事も経験することになった。

フルブライトの方は1年が期限であったが、若干延長して実習などを経験して、昭和33年（1958年）に帰国した。